

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2050号 2011年01月17日(月)

《 slow but some movements 》

ドル・円だけ見ると、先週は相変わらずスローな一週間でしたが、市場全体を見ると結構動きがあって面白い一週間でした。「ユーロの安値からの力強いカムバック」「洪水で経済への打撃が言われる豪ドルだが、底意堅調」など。

ユーロ・円の動きを見ると、確か先週の初めには一時106円台があったと思う。しかしその後スペインやポルトガルの発行債券に十分な需要があったこと、ECBのトリシェ総裁が欧州でのインフレリスクに言及し、それがユーロ買いの全体的な動きを誘発した、という背景がある。もっともその前にユーロは売られすぎていましたから、それへの自律調整という面もある。今のユーロ・円は111円に近いところにあり、一週間の動きとしてはかなり大きかった。

豪ドルの動きも「カムバック」というに等しいものでした。洪水がクインズランド州(ドイツとフランスを足したより広い面積だそう)に広がっている過程では、オーストラリアの経済成長率への打撃が指摘されて、一時は豪ドル・円で80円を割るのではないかという展開になった。しかし豪ドルの底意は堅調だった。今は最近の高値から反落してはいるものの、あれだけの災害に見舞われている中では82円台としっかり推移している。

これにはいくつもの見方が出来る。「そもそも洪水は一時的な災害であって、豪州経済に持続的な打撃を与えるモノではない。せいぜい単年での影響」「世界の資源価格、特に食料品になる穀物などの高騰を見ると、資源国としてのオーストラリアの優位性は変わらない」などが、妥当な見方だろう。ただし今の状態、つまり洪水の影響がビクトリア州まで広がりそうな展開の中では、直ちに豪ドルが上値を追うことはないだろうが、一回下を見ただけに底値はしっかりとしていると考えるのが自然だろう。

他通貨の動きの中でドル・円は静かな展開だったが、やや閉息感が強まる中で今週は若干動きへの兆しが出てくる可能性がある。19日と20日にはアメリカの住宅関係の数字が発表されるし、日本よりも企業収益の改善が著しい米企業の動向を見て、アメリカの株価は上値を追っている。米金利に再び上昇圧力がかかるような展開だと、ドル・円も上値を追う可能性もある。ただし84円台は過去に何回もトライした水準で、同台での持続力は弱いだけに何か一つブレイクするには材料が必要だ。筆者は依然として円安を見ている。

指標に触れたのでついでに指摘すると、今週は中国関連の指標が大量に出てくる。予定としては週の後半で、先週末に中国人民銀行が預金準備率を引き上げたことにも関連して、中国経済の現状を見るには数字が揃う週となろう。今の予定だと、中国の一連の数字が出てくるのは20日の木曜日で、10～12月GDP、12月の生産者物価、同消費者物価、小売売上高、鉱工業生産、固定資産投資などの統計が発表される。中でも注目なのは11月に食料品を中心に5.1%も上昇した消費者物価だ。

《 rising tensions 》

年末に行った欧州の話を書き残しておくと、財政赤字に加えて雇用の問題が今年最大の課題のような気がしました。チュニジアの暴動の切っ掛けはある若者の焼身自殺ですが、その背景は「若者の失業」にあると言われている。欧州はチュニジアに比べて遙かに「失業しても食べられる状況」があって、それが安全弁になっている。しかし、私が今回行ったスペインの失業率はなんと20%を超えている。名前の通った大きな欧州の国としては最高です。

問題は欧州の多くの国で、「正社員としての雇用」に伴うコストが非常に高いために、企業が若者の正規雇用を嫌がる傾向があること。社会保障関係の企業支払いコストが高い。それに今回のリーマンショックによる景気後退が重なって若者の失業率が大幅に上昇する事態になった。スペインで読んだ新聞（英語）にも若者の雇用がないという話は頻りに登場していたし、そもそも私がマドリードに到着した当日、ホテルにチェックインして外に出ようと思ったら、それでも赤い旗を振ったデモが小規模ながら行われていて、聞いたら「雇用」を求めるストだという。

むろん欧州の中でも温度差は大きい。強い輸出競争力があるにもかかわらず弱い通貨としてのユーロを採用しているドイツは、成長率が高まる中で経済は好調だと言われていて、失業率もスペインに比べれば比較できないほど低い。しかしそのドイツでも若年失業者の問題はあって、これは欧州全体の問題だ。チュニジアの問題はイエメンに広がる気配があるが、「若者の失業」は世界的に政情を不安定化させる懸念があるだけに、今後もよく見ていく必要がある。

今週の主な予定は以下の通り。

1月17日（月）

2月消費動向調査

日銀支店長会議

米国市場休場（キング牧師誕生日）

ユーロ圏財務相会合（ブリュッセル）

1月18日（火）

11月鉱工業生産（確報）・設備稼働率

米1月NY連銀製造業景気指数

米1月NAHB住宅市場指数

- EU財務相会議
- スペイン国債入札
- カナダ中銀政策金利発表
- ブラジル中央銀行通貨政策委員会（19日まで）
- 南アフリカ金融政策決定会合（20日まで）
- 1月19日（水）
 - 11月第3次産業活動指数
 - 12月マンション市場動向
 - 米12月住宅着工件数／建設許可件数
 - 中国国家主席が訪米（20日まで）
 - 米中首脳会談（ワシントン）
 - ポルトガル国債入札
- 1月20日（木）
 - 11月景気動向指数（改定値）
 - 12月コンビニ売上高
 - 12月日本製半導体製造装置BBレシオ
 - 米12月中古住宅販売件数
 - 米12月景気先行指標総合指数
 - 米1月フィラデルフィア連銀指数
 - 12月北米半導体製造装置BBレシオ
 - 中国10～12月GDP
 - 中国12月生産者物価
 - 消費者物価
 - 小売売上高
 - 鉱工業生産
 - 固定資産投資
- 1月21日（金）
 - 11月全産業活動指数

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。それにしてもびっくりするような寒波ですね。日曜日は東京でも朝はマイナスだったと思った。今朝も寒い。日本海側は大変な雪になっているようで、オーストラリアのそれを筆頭に、世界ではあちこちで大洪水も起きている。気流の流れの変化が言われていますが、夏が暑かったと思えば冬は寒い。経済活動には結構なことですが、あまりの極端さは体調としては歓迎できない。

ところで今年に入って考えて見たら、やはり読む本は電子本が圧倒的に多い。私の場合使い勝手を見る意味もあって SHARP のガラパゴスとソニーのリーダーを両方持っていますが、微妙に売り場（ネット上の）に並んでいる本が違う。「もしドラ」など売れ筋の数冊は別にして。そこで、両方で本を買い、その日の気分でどちらかを持って家を出るとい

うことになる。

両方とも持ち運ぶには苦にならない重さです。まだ電車の中で同じように電子書籍購読ツールを持ち歩いている人はまだ少ないのですが、特にソニーのリーダーは文庫本サイズで小さいので、「どこでも取り出せる」「どこでも読める」というのが特徴。SHARP のガラちゃんは、新聞が自動配信されるのが便利。欧州に行くときも本を何冊も持てないので、もっぱらツールに買い込んで行きました。何冊買っても同じ重さというのが良い。

バッテリーのモチは圧倒的にリーダーが優位です。白黒マシンであるのに加えて、e-ink なのでそもそもマシン自体は光を持っておらず、無駄な発光がない。その分だけバッテリーが長持ちする。しかし暗いところでは読めない。その点ガラちゃんはそれ自体が光を持っていますから、どんなに暗い中でも（照明を落とした飛行機の中でも）十分に読むことが可能です。

希望するのは、「書棚」の充実ですね。両方とも数万冊が入っていると言っているが、実際に「買おう」と思う本は少ない。今のうちはなるべく買おうという気で見るとは、それほど買いたい本があるわけではない。なんとか本のリストを増やして欲しいと思っています。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》